



「おしゃれのお手伝いは、美容師の心も元気になります」と話す小池さん

㉙ 訪問美容師

* 介護の知識役立つ

訪問美容を行うには、まず美容師の免許が必要で、美容師法に基づく政令で細則が定められている。

美容師になるには、都道府県知事指定の美容師養成施設で学び、国家試験に合格する必要がある。その後、美容室で経験を積むのが一般的。技術に加え接客能力を磨かないと、訪問美容で収入を得るのは難しい。

訪問美容を待つ人の中には、体を思うように動かせない人もいる。美容技術のほか、介護の知識があると役立つ。小池さんの美容室では、スタッフ全員がヘルパー2級か介護福祉士の資格を持つ。高齢化が進む中、訪問美容への需要は高まりそうだ。



小池由貴子さん 37

髪にも心にも潤いを

おしゃれは、人の心を明るくし、前向きにしてくれる。くつら、前向きにしてくれる。つらいこそ、この気持ちを忘れないで。そんな思いを胸に、訪問美容を掲げた美容室を開設する。

病気や高齢を理由に美容室に行けない女性のために、美容師が自宅などに出向いてシャンプーやカット、毛染めなどを施すのが訪問美容。5年前に1人で始め、今はスタッフ数人と携帯用のシャンプー台などを背負って訪問する。訪問数は月數十軒。年中無休で応じる。元気な顔の写真を見せてもらい、雑談しながら

ら髪形の相談に乗る。無表情だった女性がカットの後に鏡を見て久しづぶに顔をほころばす。「次はペーマをあてようかな」「ちょっとお出かけしようかしら」と意欲的に見える。家族から「昔のお母さんに戻りました」といった感謝の手紙が絶えない。

自身も美容に救われた。28歳の時、ひざに腫瘍が見つかり、半年間、群馬県の実家で車椅子生活を送った。東京の美容室で店長を任せられ、脂がのつていた時期だった。「なるようになつた。

社会へ引き戻してくれたのは、後輩の美容師だった。見舞いに来た時、ぼさぼさの前髪をつま切ってくれた。元の



何をおいても志を同じくしてくれるスタッフです。何にも勝る宝物です

* 私の相棒

自分に戻れた気がしてリハビリに励んだ。「この喜びを多くの人と分かち合いたい」と訪問美容を始めた。東京・巢鴨にある美容室は2年前にできた。車椅子のまま利用できる造りが特徴で、訪問美容を受けて外へ踏み出す希望を持つた人も来る。「美容の力で笑顔を増やしたい」と話す。(山口正雄)



し、現在は要介護2。介護保険で車いすや歩行器をレンタルし、ホームヘルプも受けているが、それだけでは足りず、保険外で介護ヘルパーの資格を持つ家政婦2人に交代で来てもらっている。毎日午後4時から3時間、入浴介助や見守り、食

保険外ホームヘルプ



利用者(手前)と相談しながら洋服ダンスの整理をする「グレースケア機構」のヘルパー永井さん(東京都三鷹市で)

女性宅に家政婦を紹介した「やさしい手 大橋サービス」(東京都目黒区)には、介護ヘルパーの資格を持つ家政婦約1000人が

れば余裕を持って利用者に接することができる」とやりがいを感じている。介護保険のホームヘルプの経験もあるが、「時間内に決められたことをやりきらなければならず、会話もままならない」と話す。

女性宅に家政婦を紹介した「やさしい手 大橋サービス」(東京都目黒区)には、要介護者本人だけが対象で、家族のための食事作りや家全体の大掃除、ペットの世話を担当している。

大橋サービスには、要介護者の同居家族からも依頼が多い。介護保険のホームヘルプは、要介護者本人だけが対象で、家族のための食事作りや家全体の大掃除、ペットの世話を担当する。

NPO法人「グレースケア機構」(東京都三鷹市)代表(45)は「指名されればスなので、全額自己負担で指名制は1時間3600円(税別)だが、毎月4~5回のヘルプなどもなし、年収500万円のパートのヘルパーもいる」という。

介護職員の処遇改善も期待

公正取引委員会の調査によると、介護サービス企業の約6割が保険外サービスを提供している。厚生労働省などは3月、保険外サービスを広げるため先行事例集を発行した。

公取委は9月、介護分野の競争促進に関する報告書をまとめ、保険対象と対象外サービスの併用を進める「混合介護の弾力化」を盛り込んだ。介護保険のホームヘルプで追加料金を徴収し、①家族の食事作りや洗濯などもまとめてできるよ

うにする②ヘルパーを指名できるようにするなどを提案。「利用者の利便性向上や事業者の収入増、介護職員の処遇改善が期待できる」と強調した。

日本総研創発戦略センターの斎木大シニアマネジャーは、「規制がないので様々なサービスを提供できるが、サービス内容を十分に理解できない高齢者もいる。契約時の情報提供や、苦情対応など消費者保護の取り組みが欠かせない」と指摘している。



中村 橋之助さん

ぜい

9割以上の方が父の顔を思い出せるはずです。そこで四代の僕の顔がパツと出てくるように、一生懸命舞台を勤めていくます。グリーン車に乗るのは人前の役者になつてから。まだ、だいぶ先です。(聞き手・滝沢康弘、写真・鈴木毅彦)

が、つうしんはB
ルに無縁の妹たち
むことができ、印